

# 農場基盤及び施設・設備の整備に関する調査（平成 27 年度）

全国高等学校農場協会振興局

## 1 調査目的

国による学校農場の基盤整備並びに施設・設備の整備は、学校農場基盤整備事業の予算化が廃止となったことや、産業教育振興費国庫補助金の減額、地方財政の悪化等により予算の確保が困難となっている。そのような中すでに老朽化し更新を必要とする施設・設備も多くなってきている。

一方、農業教育においては、新学習指導要領に基づく新技術に対応した指導、安全な実験実習指導、環境に配慮した指導等、より魅力的で、効果的な指導が求められている。このため、農業高校における農場基盤整備及び施設・設備に関する予算確保は、重要な課題である。

このアンケートは、農場基盤整備の必要性及び施設・設備の整備状況を調査することにより、学校農場基盤及び施設・設備の整備を促進するため国への要望、及び各都道府県において活用できる資料とするためのものである。

## 2 対象

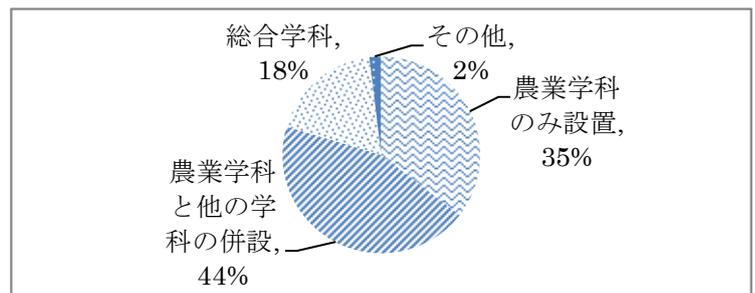
農業関係学科を設置している高等学校

## 3 アンケート結果

農業系学科を設置している学校 379 校中 323 校、85.2%の学校から回答を得た。

### I 校種

農業関係の学科のみいわゆる単独校は 35%、他学科の併設校は 44%、総合学科は 18%であった。各校種の割合については、昨年度とほぼ同様である。

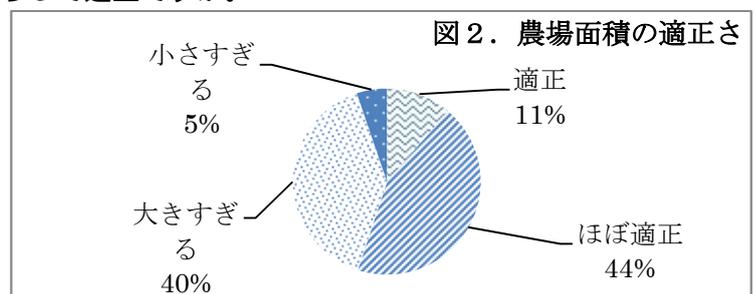


### II 農場基盤整備に関すること

農場基盤整備とは、農道、圃場区画、圃場の排水、土壌改良、農場全体の排水路、灌漑設備等、農場の基盤を整備しようとするものである。

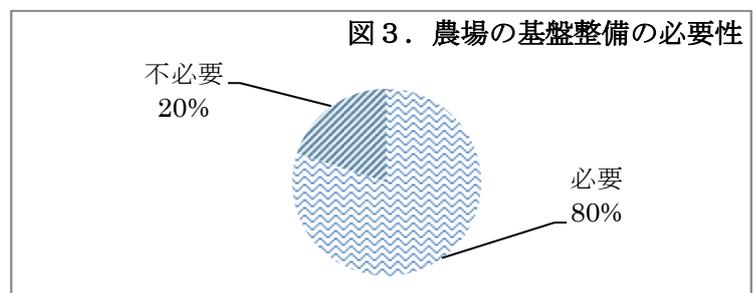
#### 1 今の学校の農場面積は、学科構成や生徒数に照らして適正ですか。

肯定的な回答がやや減少し、依然として見直しが必要な状況にある。



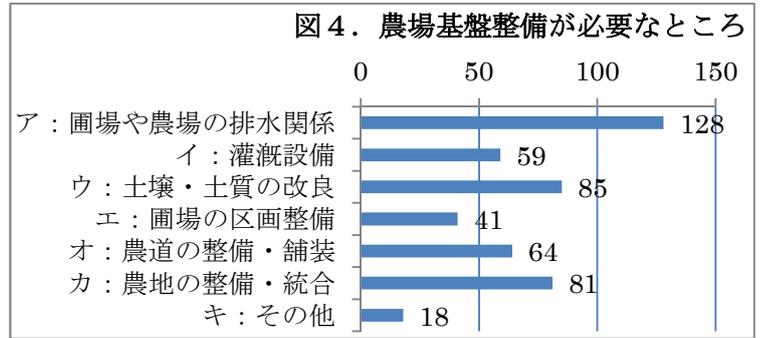
#### 2 農場基盤の整備を必要としていますか。

必要としているのが約 8 割であり、ここ数年変化がなく、依然として大きな課題となっている。



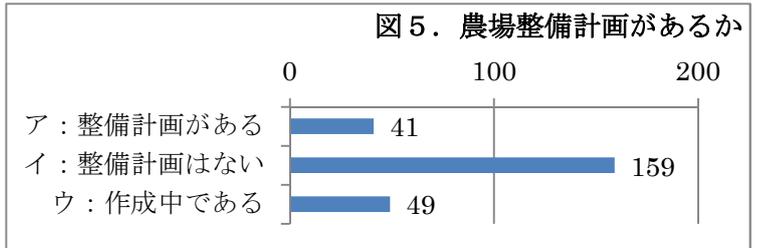
3 **ア 必要としている**と回答した場合はどのような整備を必要としているかお答えください。

必要となっているものについては、一昨年から昨年にかけて「ア：圃場や農場の排水関係」が約1割増加したが、本年度の調査でも高い数値で推移しており、依然として課題となっている。また、「ウ 土壌・土質の改良」が約5割増加し、新たな課題となっている。

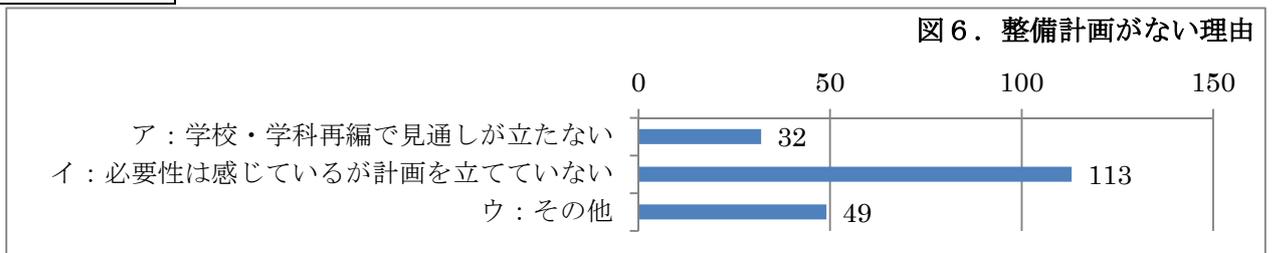


4 **ア 必要としている**と回答した場合、整備計画がありますか。

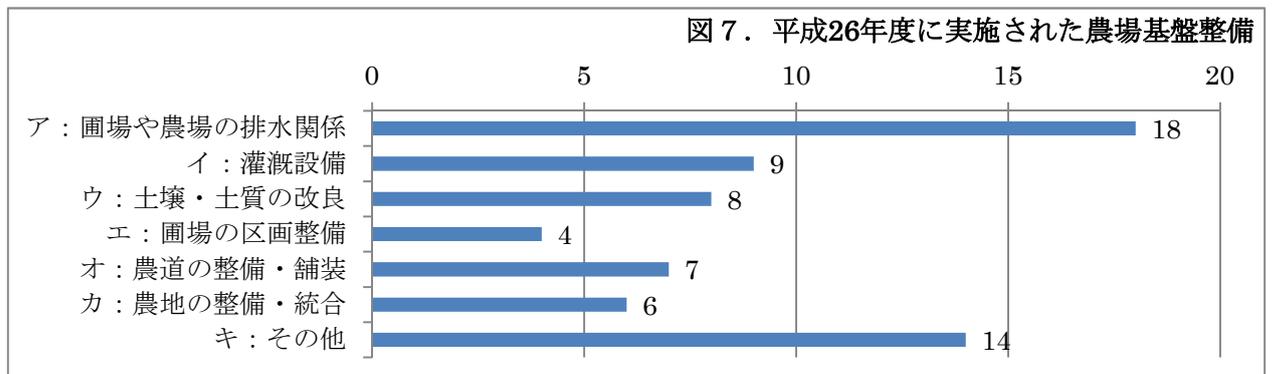
「イ：整備計画はない」がほとんどであるが、昨年と比べ、「ウ：作成中である」が約5割増加している。「ア：整備計画がある」については昨年と同様である。



5 **イ 整備計画はない**と回答した場合、その理由をお答えください。



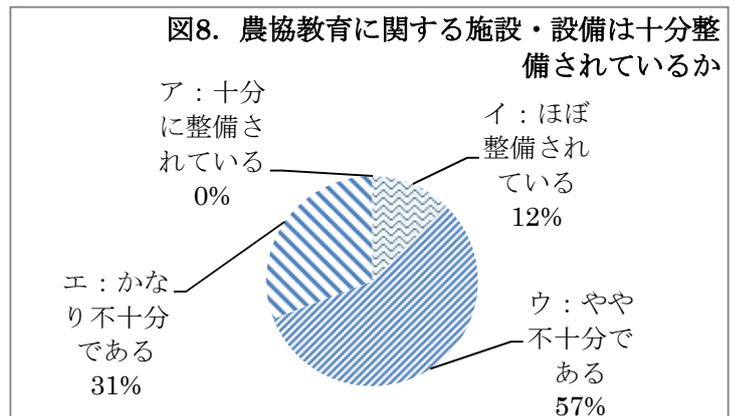
6 平成26年度に実施された農場基盤整備に関する事業がありましたらお答えください。



III 施設・設備の整備に関すること（※施設・設備には、施設・設備に備えられる備品を含むこととする。）

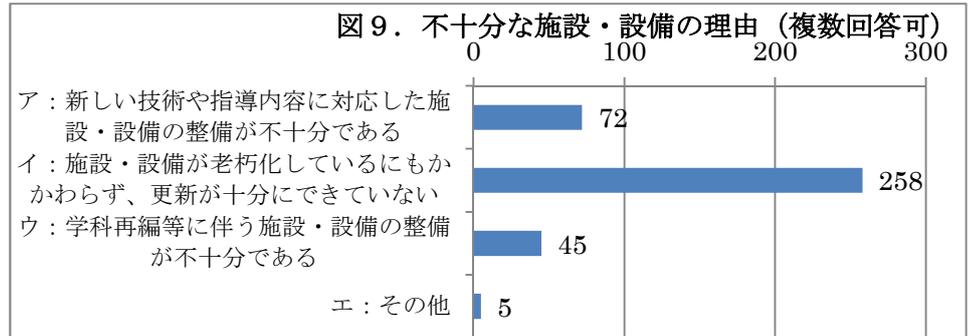
1 貴校で農業教育に関する施設・設備は、十分に整備されていますか。

昨年と殆ど同等の値を示している。依然として改善が進んでいない状況にある。



2 施設・設備の整備が不十分であると回答した場合（ウ・エと回答をした場合）の理由を次のうちから選んでください。該当項目が複数ある場合はすべて選んでください。その他を選んだ場合は記述してください。

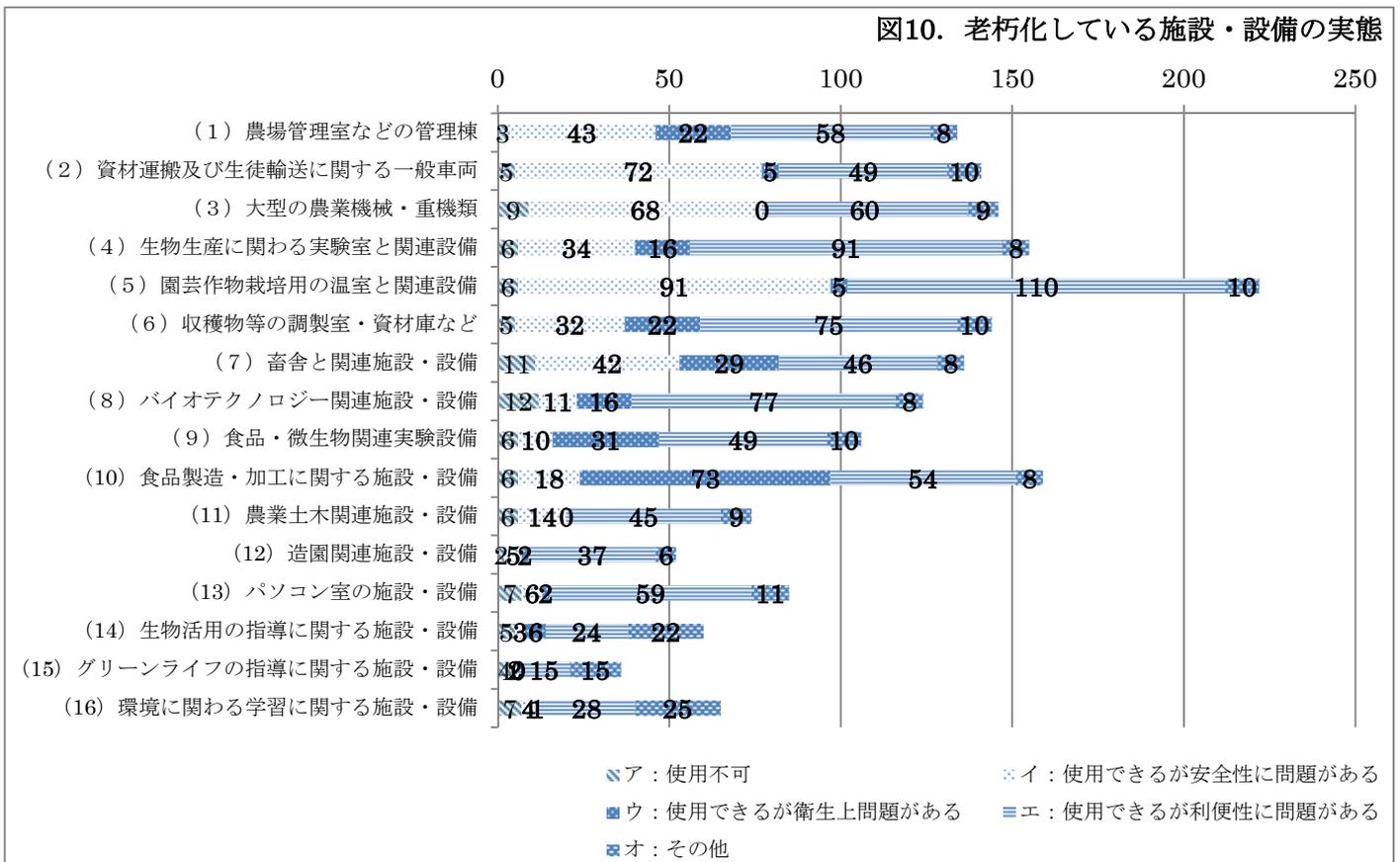
昨年に比べ、「イ：施設・設備が老朽化しているにもかかわらず、更新が十分にできていない」が3割増加している。老朽化に対する整備の遅れが、浮き彫りになっている。他の値は、昨年とほぼ同様である。



3 2のアに回答した場合、新しい技術や指導内容に対応した施設としてどのようなものを考えているか、具体例をあげてください。例：グリーンライフ用の多目的実験室

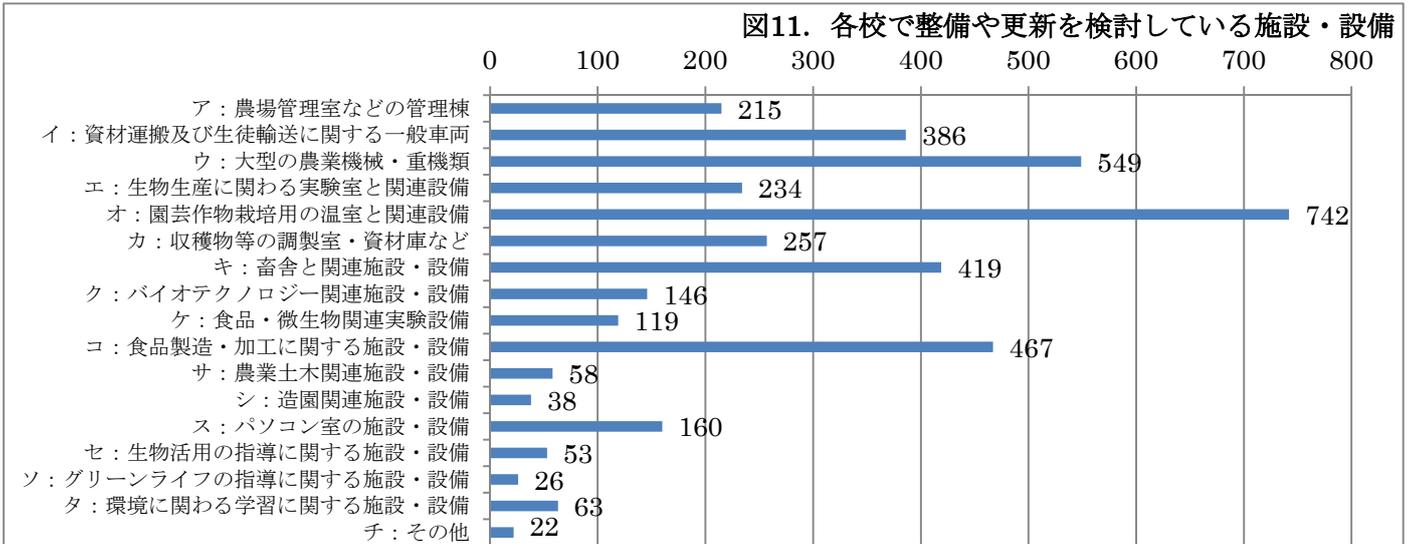
動物バイオテクノロジー用の実験、林業機械の導入、植物工場・食品加工施設、食品製造・植物工場に関する先進設備、高性能林業機械、制御温室、農業機械実習室、一般車両・大型農業機械・重機類等車庫の整備、グリーンライフ用多目的実習室、業務用オープン・生物顕微鏡等、課題研究で実施しているホップ和紙の専門的な設備、植物バイオ・生物利用・実験実習の実験棟や農業教科専用の施設等、実験実習の実験棟や農業教科専用の施設等、GAPに対応できる施設・調整室・加工室等、イチゴ・トマト用高架式養液栽培施設、6次産業化に関する研究活動に必要な食品加工施設・備品等、高品質農産物の検査に必要な測定・分析装置、CADシステムの導入・園芸施設へのICT設備の導入、畜舎の糞尿の再利用、微生物利用の実験実習用器具・機材、資格取得実施施設、食品・家畜衛生に関する施設・設備、販売所の整備、農業と環境の多目的実験施設、化石燃料を使用しない温室の建設、生物活用実習施設、園芸福祉関係の施設、土壌・作物分析室、バイオテク用の細胞融合装置（電気刺激）、野菜収納調整室、育苗施設、養液栽培施設、糞尿処理施設（ナノ化した糞尿をメタン発酵）、イチゴ栽培用施設・炭酸ガス発生装置・電照・採苗システム等、遺伝子解析装置等の設置、測量機器の整備、水耕栽培の施設・設備、切り花収穫調整室等々。

4 2のイに回答した場合、下記の施設で老朽化しているものについて、具体的にどのような状態か下記の記号でお答えください。（該当しない場合は空欄をお願いします。）

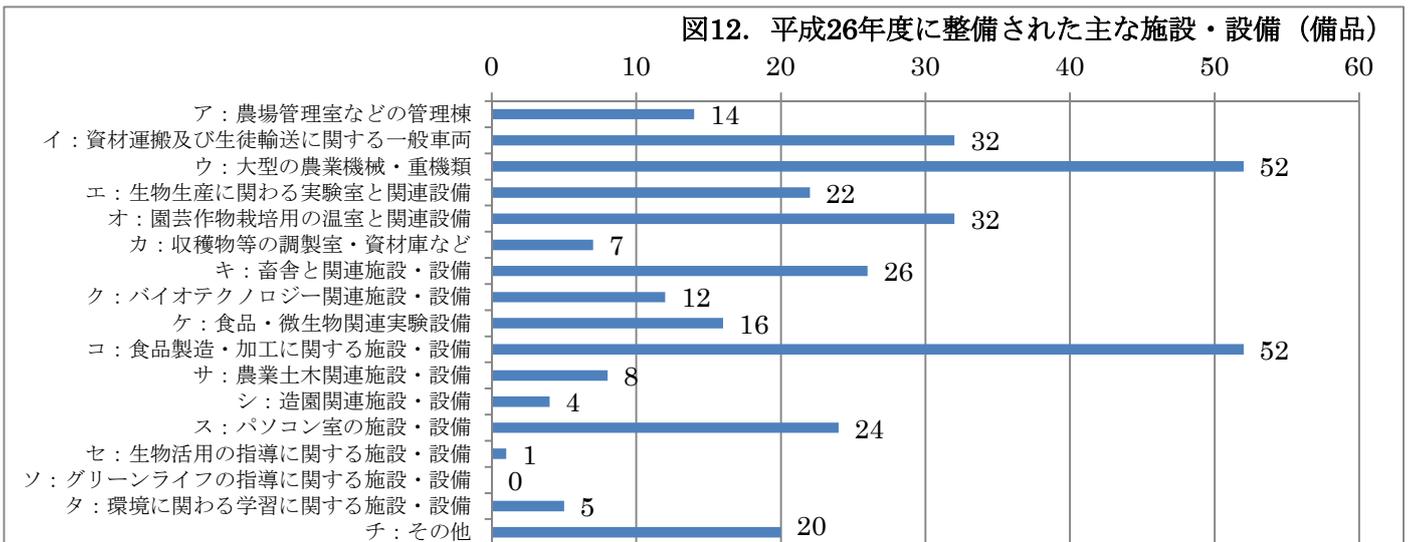


5 貴校で現在、整備や更新を考えている施設・設備を次のうちから選び、優先順に5つ以内でお答えください。

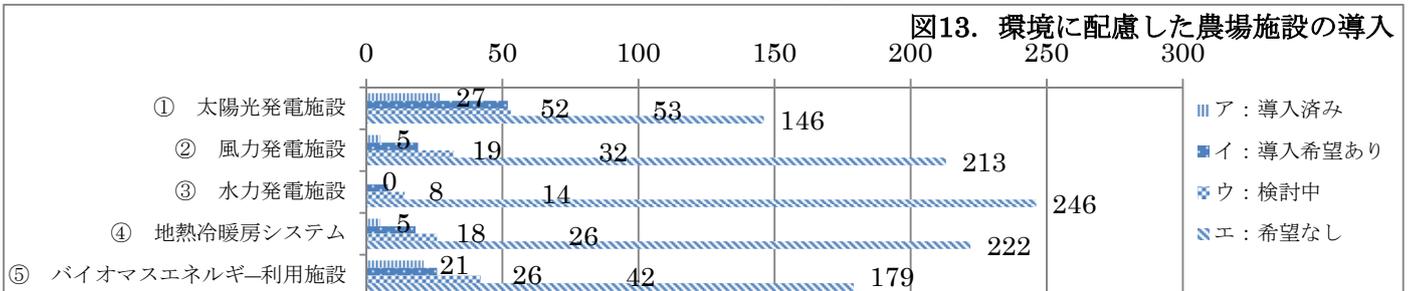
「各校で整備や更新を検討している施設・設備」では、優先順位順に5段階のポイントを乗じ(1位には5、2位には4、3位には3、4位には2、5位には1)その優先順位を反映させて集計した。「オ：園芸作物栽培用の温室と関連設備」、「ウ：大型の農業機械・重機類」、「コ：食品製造・加工に関する施設・設備」などが、優先度が高くなり、昨年と同様の順位となっている。



6 平成26年度に整備された主な施設・設備(備品)をお答えください。



7 貴校で、環境に配慮した農場施設の導入について、下記から選んで記号を記入して下さい。



4 最後に

最後に、全国の各農場代表の皆様におかれましては大変お忙しいなか多大なるご協力を賜りまして、大変ありがとうございました。農業学科設置校が僅かながらも減少傾向にある中、先生方のご協力により年々回答数も増え、より精度の高い農場基盤及び施設・設備の整備に関する基礎資料を得ることができました。お預かりしたデータを分析し、今後の要望につなげていきたいと思っております。あわせて、本調査が少しでも各都道府県の予算獲得のお役に立てることを願いつつ、皆様の御多忙中の御協力に重ねて御礼申し上げます。